



病院で働く言語聴覚士。どんな仕事なのでしょうか—笛吹市内

びょういん かつやく
病院で活躍
 げんごちょうかくし
言語聴覚士って？



病院と聞いてどのような職業を思い浮かべるでしょうか。お医者さん？ 看護師さん？ 他にもいろいろな専門知識を持った人たちが働いています。その中の一つに言語聴覚士がいます。病気やけがなどで人とコミュニケーションする力が弱まった患者にとっては大切な存在で、山梨県内でも活躍しています。どのような仕事をしているのか探りました。

こた めん
答えは2面

「なぜなにQ」では、みなさんの質問を受け付けています。身近なことで不思議に思うこと、詳しく知りたいことなど何でも構いません。右の

2次元コードからLINEの「週刊こびっと」アカウントに友だち登録して、意見や質問をお寄せください。メールはkodomo@sannichi.co.jp、

はがきは郵便番号400-8515、甲府市北口2の6の10 山梨日日新聞社編集局、「週刊こびっと なぜなにQ係」まで。





なぜ **A** かに 患者の「話す・聞く」を支援

笛吹市春日居町国府の春日居総合リハビリテーション病院。患者の前に動物や食べ物などが描かれたカードが並んでいます。「ニンジンは何？」「腕時計は何？」。言語聴覚士の女性の質問に、患者はカードを指さして答えます。

「言語聴覚士は簡単に言うと、コミュニケーションを手助けする仕事です」。そう説明してくれたのは、この病院で働き、山梨県言語聴覚士会の会長でもある内山量史さんです。

内山さんによると、病気や交通事故などでけがをしてしまうと、うまく話せなくなったり、人の話を聞いても理解できなくなったりすることがあります。そんなときに登場するのが言語聴覚士です。どうしてコミュニケーションがとりにくくなったのか、その原因を調べます。絵や物を見せて患者にその名前を言ってもらったり、書いてもらったりして、少しでも元に近づけるようにトレーニングを手助けしてくれます。

他にも活躍の舞台はあります。人は年齢を重ねると、食べ物をのこす力が弱まって

いきます。肺炎の原因となることもあり高齢者にとって怖いことなのですが、言語聴覚士はのみ込む力を強くする方法を一緒になって考え、教えてくれます。

言語聴覚士になるためには高校を卒業した後、決められた学校に通い、試験を受ける必要があります。試験は1年に1回あり、これまでに3万8000人以上が合格しています。

内山さんが高校を卒業した1980年代後半はまだ言語聴覚士という資格がなかったそうです。当然のことですが、その時代も病気やけがなどでコミュニケーションに困っている人がいなかったわけではありません。

内山さんはそうした人の手助けをしたいと考え、専門知識を学べる学校を探して進学しました。今では全国に73校ありますが、当時は3校しかなかったそうです。資格ができて最初に試験が行われたのは1999年。内山さんは病院で働きながら試験を受けて合格し、正式に言語聴覚士となりました。

今、山梨県内では137人の言語聴覚士が活躍しています。多くは内山さんのように病院で働いていますが「もう少し増えた方が



言語聴覚士について教えてくれた内山量史さん＝いずれも笛吹市内

いいなあ」と思う地域があるそうです。子どもに対応したり、高齢者施設で働いたりする言語聴覚士も必要だと考えています。

「患者が回復して家族の元に戻っていく姿を見ると本当にうれしい」。言語聴覚士という仕事のやりがいを話してくれた内山さん。「興味がある人はチャレンジしてほしい」と呼びかけています。

〈植田裕作〉